

第3回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年1月23日（月）午後6時から午後8時
- 2 場所：多摩市永山公民館4階 視聴覚室
- 3 出席委員：和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、富田委員
- 4 欠席委員：小城委員
- 5 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長 第3回自治推進委員会を開催する。
平成29年今年初めての委員会となる。今年1年よろしくお願ひしたい。

2 報告

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願ひしたい。

資料1～3、参考資料1及び2に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何か質問はあるか。

委員 各地域デビュー手引書はどこで手に入れることができるか。

企画課長 市役所、各出張所等施設において無料配布している。

委員 参考資料2の市民団体アンケートについて設立5年未満の団体が“0”となっているが、設立5年未満の団体はないのか。

企画課 回答いただいている団体の中にはなかった。

委員 設立30年以上の団体が84%であり、5年未満が0%となっている。時代やニーズが変わってきている中で、この30年以上続く団体の活動が、今までのものをすべて網羅していれば、この結果でも良いと思う。

本来であれば、時代やニーズの変化に伴い、団体の生まれ変わりがあっても良いと思うが、30年変わっていないことをどう捉えたらよいのだろうか。

委員長 団体設立が最近ないのか、それとも最近設立した団体がアンケートに協力していただけなかったのかによっても変わってくると思う。

委員 NPO団体の活動は、時代やニーズを反映していくことが大事である。必要になったら生まれて、そして一定の役割を終えたら活動を終了する団体もあると思う。このように生まれ変わっていくことも重要である。

委員 自治会は、まちができるときに一緒にできるが、NPO法人はそうでない。その部分で異なる場合もあるのではないか。

副委員長 地域デビュー手引書で紹介されている団体の設立日を記載すると、その団体がどれくらい活動しているかわかり、市民にとっても良いかもしれない。

3 議事

委員長 今後、自治推進委員会でのどのようなテーマを中心に議論するのかを話し合いたい。事務局より配布された資料3「これまでの自治推進委員会での主な意見」からもヒントがあると思うので資料を基に議論していきたい。

委員 市民団体アンケートの結果について、「担い手がいない」というのが数字にも表

れている。私自身地域デビュー手引書があることを今日初めて知った。周知が上手にされていないことで担い手が見つからないこともあるのではないかと。

委員

周知はされていると感じる。出張所や公民館等の施設にも、たくさん勧誘や周知のチラシが置いてある。ただ、チラシ等がたくさんありすぎて、自分に合ったものが見つからないときがある。

委員

各施設に置いてあっても「何かやろう！」と思っている人しか手に取らない。

委員長

通りすがりでも、手にとってもらえるような仕組みが必要ではないだろうか。

副委員長

「担い手がない」とあるが、実際に若手を求めている団体もあると思う。現在でも良い関係ができて、自分たちで楽しんでいる団体もあり、実際には若手を求めている場合もある。一方で切実に会員を募集している団体もあり、その団体に対して、対応できる中間組織が必要だと思うが、そのような仕組みはあるのか。

企画課長

地域ふれあいフォーラム等で、団体自ら市民に直接PRしている。

委員

例えばホームページ等でナビゲートするシステムがあっても良いと思う。自分が何をしたいのか、自分に合ったものが何なのか、発見できると思う。

大きな団体は、活動継続するが、人の出入りがあるかもしれない。また、終わってしまう団体もある。そしたら、また新しいものを作る。いろいろな形で、団体を作らないと活性化しないと思う。

副委員長

団体の活動内容についても大事だが、その団体に参加するかどうかは、どのような人たちが実施しているかによると思う。友人が参加している団体のほうが入りやすい。設立する人は強い意志があるからそれは任せれば良いと思う。

委員

地域デビュー手引書にも団体として紹介されているが、グリーンボランティア森木会では、1年かけて交流しながら各地で講座を開いている。そこから紹介や周知等広げてく。それが子育てや高齢部門にもあれば良いと思う。講座の参加を通して入会する。講座修了後に自分に合った団体を紹介。もし自分に合ったものがなければそこで知り合った者同士で新しい団体を作る。そういう流れが必要だと思う。

副委員長

グリーンボランティア森木会は、各活動がありながら会員の紹介などマッチングもできる仕組みが良い。ただマッチングのみを行う団体だとなかなか繋がらない。

委員

今ある団体が合わないのであれば、出会った人同士で新しい活動を立ち上げられる。そういう仕組みがあると市の活動も活性化するのではないかと。

委員長

人材の発掘ができるような仕組み、今まで参加していない人たちをどうやって取り込むのか。

今までの意見では、現在の市民活動が市民に浸透していない、または活用されていないから担い手がないという意見が出たが、今後の将来像としていいアイデアはあるか。市の担い手づくりはすでに行っているのか。

企画課長

市では、講座等を行っているが、地域活動に結び付けるのは難しい。

副委員長

本当に会員や担い手を増やしたいのであれば、その理由や団体が今後をどう見ているのか聞く必要があると思う。

委員長

市民活動の拡充の仕方や参画していただくための手法を検討する必要があると思う。

- 委員 それぞれの組織の問題を解決していくのか、それとも市民がどう参加していくのか。どのサイドから見るかによってテーマも変わってくる。
- 第四期自治推進委員会で市民に対する情報提供について提言しているが、現在に至っても問題は残っている。市民が中身を知っているか、また伝わっているかが大事であり、情報提供の徹底が必要である。
- 委員 自分が何かを作ったり、団体を設立したら、多くの人に知ってもらいたいと思う。発信して知ってもらう手段が必要である。
- 委員 アンテナを張って情報を取り入れたい人と、日々の生活で精一杯の人がいる。イベント等の告知は広報でもかなり行っていると思うが、それが伝わっていないので、誰の目にも留まるような見せ方が重要であると思う。
- 委員長 広報活動など積極的に行っているのに、伝わらないのにはどんな原因があるのか。情報提供の方法について検討しても良いのではないか。
- 委員 自宅や自分の周りでどんなことをやっているかという周知と、自分のやりたいことがすぐ見つかるような情報提供との2パターンが考えられる。
- 委員長 それぞれのアプローチが必要であり、加えて参加していない人たちへのアプローチ方法も考える必要がある。
- 副委員長 イベントへの参加を増やすよりは、その主催側の団体の担い手を増やしていくほうが先だと思う。
- 委員 例えば、多摩センターのハロウィンのイベントは、準備の段階で市内の学校や学童、児童館等を巻き込んでいて良い連携ができていていると思う。
- また、イベントは開催が目的だが、そのプロセスにどう関わっていくかということの方が、地域活動をするうえで必要である。
- 委員 ハロウィンのイベントの取り組みは良い仕組みづくりができていていると思う。ハロウィンは大きなイベントだが、この仕組みがコミュニティセンターや小規模な団体でもできるといいと思う。
- 副委員長 プロセスができるとコミュニティができる。それを維持するためには、知識とコーディネーションスキルが必要となる。参加者本人が楽しいと友人を誘う。それだけの満足感と自信があるからである。友人の誘いだと信用があり、参加者は増えていく。
- 委員 テーマとして気を付けなくていけないのは、自治推進であって、地域のそれぞれの活動をどうするかではない。
- 糸魚川市の火災では連携により負傷者が出なかったこと、熊本の災害でも連携が取られていたこと。多摩市ではどうだろうか。隣人のことを知らない人も多いのではないだろうか。多摩市でも連携し合って地域解決できるような知り合いの輪を作る。そのきっかけになるのが地域の祭りだったりするのではないか。
- 企画課長 議論にも出ており、また第1回自治推進委員会で阿部市長から、コミュニティが希薄化しているため、町内会の強化や共助を推進していく必要があると話があったように、市や地域住民で連携し合っていける「共助」の体制作りが必要である。
- 委員 自治会によって活発に活動している等の地域差はあるのか。地域によっては、子ども会がなくなったりしていると聞いたことがある。

- 企画政策部長 集計を取っているわけではなく、活発といえるかわからないが、既存地区はわりと地域の土台ができていますので活動していると感じる。
ただ、どこの地域も継続が困難な状態にあるように思う。
- 副委員長 地域活動は、子どもや高齢者が歩いて行ける範囲でないと成り立たない。また、災害のような緊急事態が起こらないと、地域活動の重要性にも気づかないことが多い。
団地ができて、人と知り合って、そこから知り合いの輪ができる。しかし、今はその状態にない。そこからの仕組みづくりが必要である。
近年では、周りになんでも揃っていて、一見1人で何でもできるように感じる。でも実際は、子育てなどでは子育てひろばのような共有の場を作らないと困ってしまう状況がある。
- 委員長 市民と社会をどうつなげていくか、そこからの地域活動にどうつなげていけるかが重要である。
- 委員 行政サービスは行政行うのが当たり前の時代だが、サービスがは届かない部分がある。また、本来行政ではなく市民がやるべきこともある。それを市民が連携して行う。母体は小さくても良いが、市民にできることは市民が連携し合って行う。これが住民自治になる。
- 委員 地域活動に参加していない人からすると、「自治会」という言葉自体ハードルが高いように思う。参加→協力→活動のようなステップを踏んでいくみたいな活動の提示ができるとよいのではないかと。
- 副委員長 ある地域では、PTA制度を廃止した学校もあると聞いた。だが廃止した代わりに学校コーディネーターを配置しており、今までのように運営が成り立っているようだ。時代に合わせたやり方に変えていくのも良い方法だと思う。
私自身もある団地の記念イベントを任されているが、今までと違うことを何かやってみようと思っている。行事ごとに違うことをしていると興味がわいてきて、参加者が増えるのではないかと。
- 委員 今後は、これまでとは違う、人の繋がり方ができていくのではないだろうか。
- 委員長 だんだんとテーマが絞られてきたように思う。今までの皆さんの意見から、コミュニティや地域活動に参加してもらえようような情報発信等の仕組みの再構築が必要と感じる。
各団体の実態調査が必要であれば行いたい。コミュニティへの参画が行政への参画につながれば良いと思う。また、市民と社会を繋げる仕組みが必要ではないだろうか。
「コミュニティ参加の仕組み（情報発信）の再構築」を軸に進めていけたらと思う。正式なテーマ設定は改めて決めていきたい。
このようなテーマ設定についていかがか。
- 委員全員了承**
- 今後、具体的な議論をしていけたらと思う。

4 その他

事務局

第4回自治推進委員会については、2月14日（火）午後6時30分より市役所3階特別会議室にて行う。

第5回自治推進委員会については、現在調整中であるが、3月中旬あたりを予定している。決定次第委員の皆様にご連絡する。

委員長

ご質問等はあるか。

本日の自治推進委員会はこれで終了とする。

5 閉会